

# バイオマスボイラー提案強化

乾燥装置メーカーの大川原製作所(吉田町)は、食品製造事業者などにバイオマスボイラーシステム導入を促す事業を強化している。国内外で脱炭素化の対応が加速する中、二酸化炭素(CO<sub>2</sub>)排出量や廃棄物処理量の大幅削減に寄与する設備として支持獲得を目指す。

## 吉田の大川原製作所

生活排水汚泥を減量化するため30年前に開発した燃烧技術を進化させ、食品や飲料の残りかすを熱エネルギーに変換して効率よく蒸気や温水として回収するシステムを確立している。独自の流動床式燃焼炉は、廃熱回収した高温熱風で加熱された流動砂が高含水率の有機資源を瞬時に乾燥し、安定した燃焼を実現する。

昨秋に麦茶飲料などを手掛ける和歌山県の和歌山ノークヨー食品工業海南工場が同システムの導入を決め、同工場にエネルギーサービスを提供するDaigasエナジー(大阪市)から受注した。来年5月の稼

## 脱炭素化加速に対応

働に向け、設計・製作を進めている。

茶殻を燃料にし、排ガスボイラーで生じた蒸気を飲料の生産工程で活用する仕組みを構築。年間当たりで廃棄物量を約9割、CO<sub>2</sub>排出量を約600トそれぞれ削減を見込む。

新型コロナウイルス禍で営業活動が制約される分、ウェブページに新技術や導入事例、受注成果を掲載するなどの手を尽くし、関連企業の関心を引き寄せている。大川原製作所の担当者は「顧客の企業価値向上に資する提案を重ね、持続可能な社会の実現に貢献していく」と話した。

(經濟部・栗原広樹)